

## 令和3年上半期における刑法犯認知・検挙状況について【暫定値】

### 1 刑法犯認知・検挙状況

	R3.6末	R2.6末	増減数	増減率(%)
認知件数	277,300	307,470	-30,170	-9.8
検挙件数	128,979	136,451	-7,472	-5.5
検挙人員	85,126	88,336	-3,210	-3.6
検挙率(%)	46.5	44.4	+2.1ポイント	

### 2 主な特徴点（別紙参照）

#### (1) 認知状況

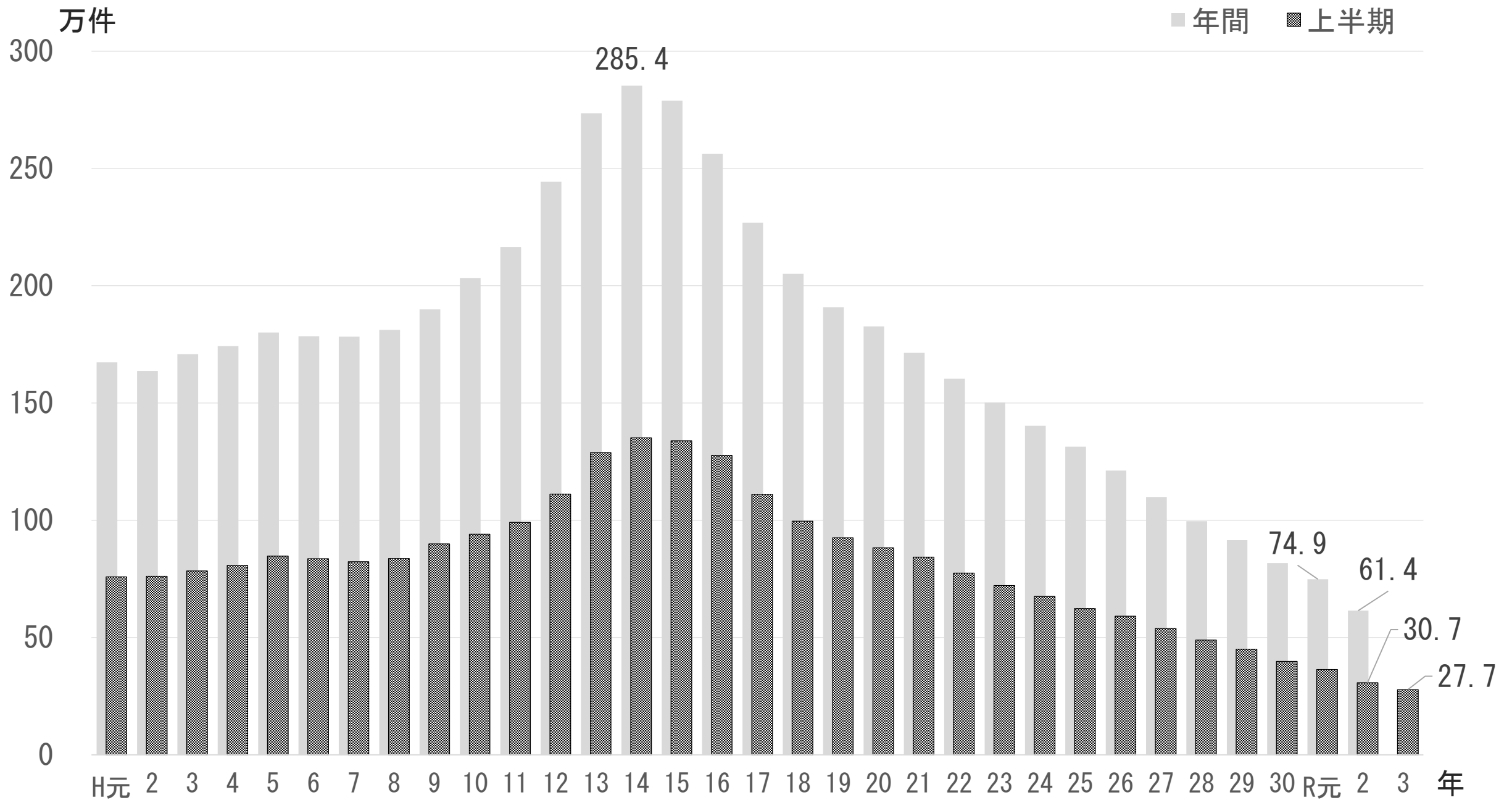
- 令和3年上半期における刑法犯認知件数は27万7,300件で、年間の認知件数が戦後最少であった令和2年（61万4,231件）の上半期（30万7,470件）を更に下回った（前年同期比で9.8%減少。）。他方、重要犯罪の認知件数は前年同期比で2.0%の増加となった。
- 刑法犯認知件数のうち、特に、街頭犯罪及び侵入犯罪の認知件数が大きく減少しており、前年同期比でそれぞれ16.7%、21.8%減少した。  
包括罪種別に見ると、刑法犯認知件数の約7割を占める窃盗犯の認知件数が大きく減少しており、前年同期比で12.0%減少した（このうち、重要窃盗犯の認知件数は前年同期比で23.3%減少。）。

#### (2) 検挙状況

- 令和3年上半期における刑法犯の検挙率は46.5%、重要犯罪の検挙率は91.0%、重要窃盗犯の検挙率は74.5%であった。
- 刑法犯、重要犯罪及び重要窃盗犯の検挙率はいずれも平成10年代半ば以降上昇傾向にあるが、本年上半期は、重要犯罪の検挙率のみ前年同期比で1.0ポイント下落している。

# 刑法犯の認知件数の推移

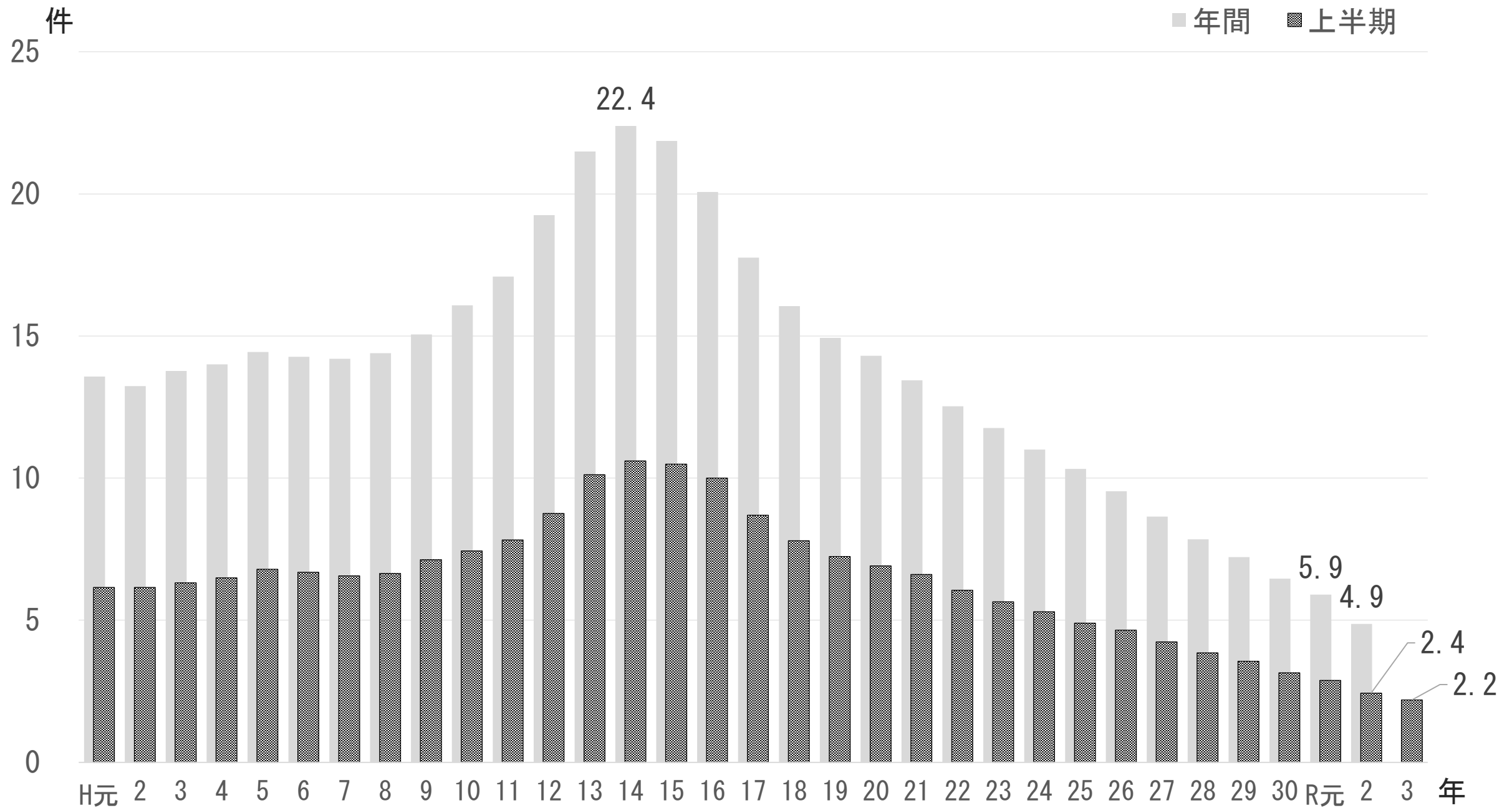
※ 令和3年上半期の数値は暫定値。以下同じ。



令和3年上半期における刑法犯認知件数は27万7,300件で、戦後最少であった令和2年(年間61万4,231件)の上半期(30万7,470件)を更に下回った(前年同期比で9.8%減少。)

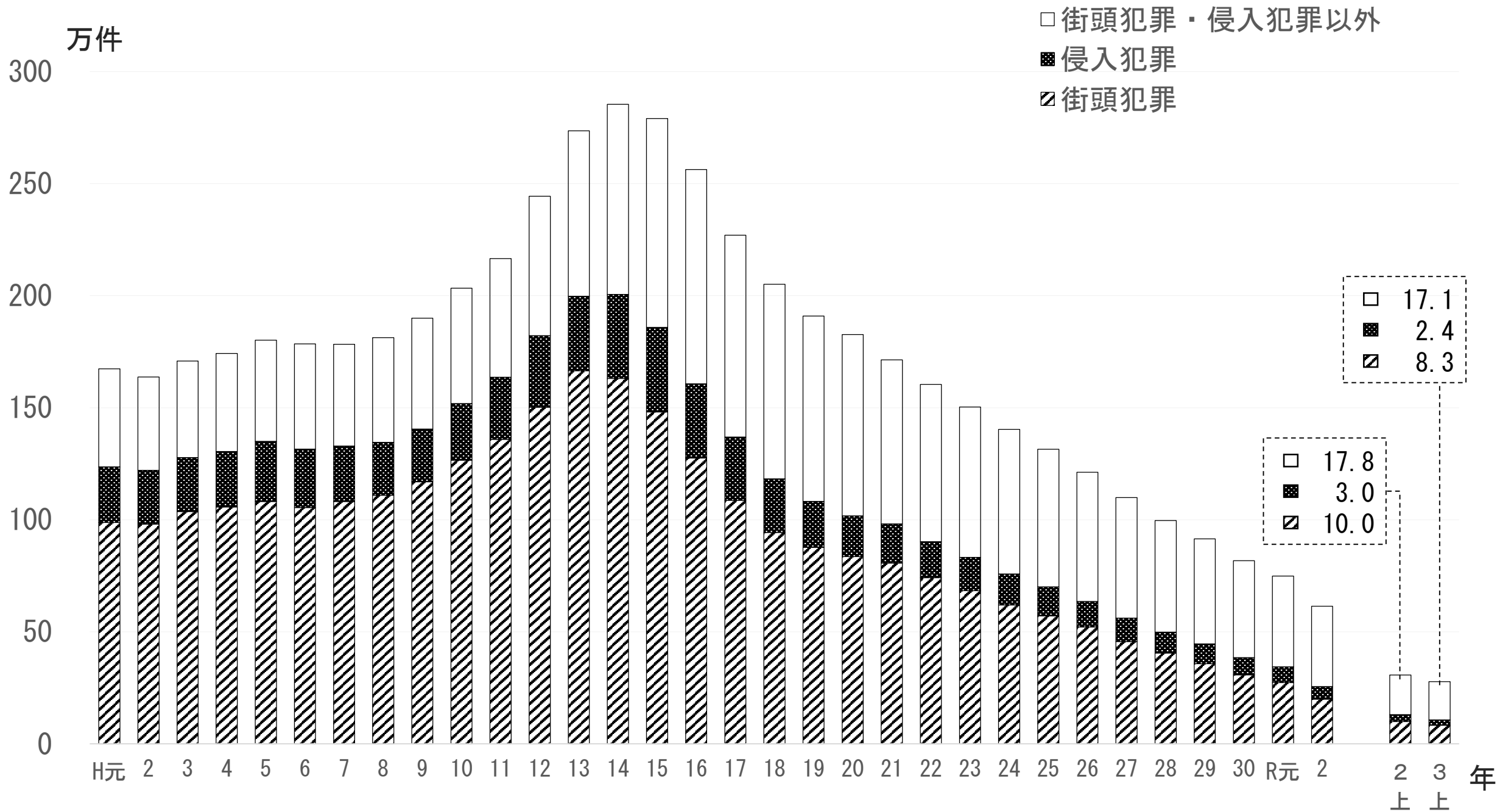
# 人口千人当たりの刑法犯の認知件数の推移

※ 人口は、総務省人口推計による各年10月1日現在の総人口。  
 ただし、令和3年上半期は令和2年の人口。



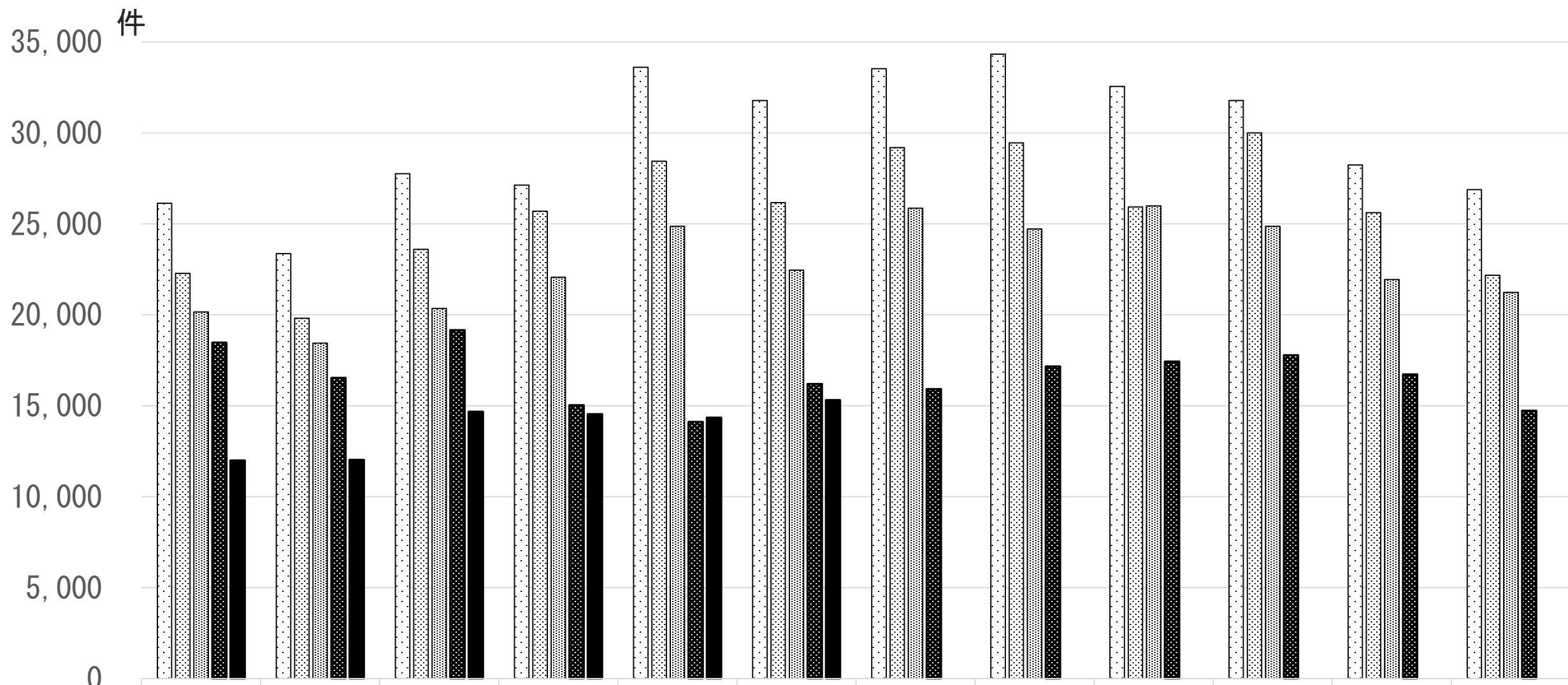
令和3年上半期における人口千人当たりの刑法犯の認知件数は2.2件となり、戦後最少であった令和2年(年間4.9件)の上半期(2.4件)を更に下回った。

# 街頭犯罪・侵入犯罪の認知件数の推移



令和3年上半期における街頭犯罪の認知件数は8万2,904件となり、前年同期比で16.7%減少した(侵入犯罪の認知件数は2万3,571件となり、前年同期比で21.8%減少、街頭犯罪及び侵入犯罪以外の認知件数は17万825件となり、前年同期比で3.9%減少した。)

(月別)街頭犯罪の認知件数の推移



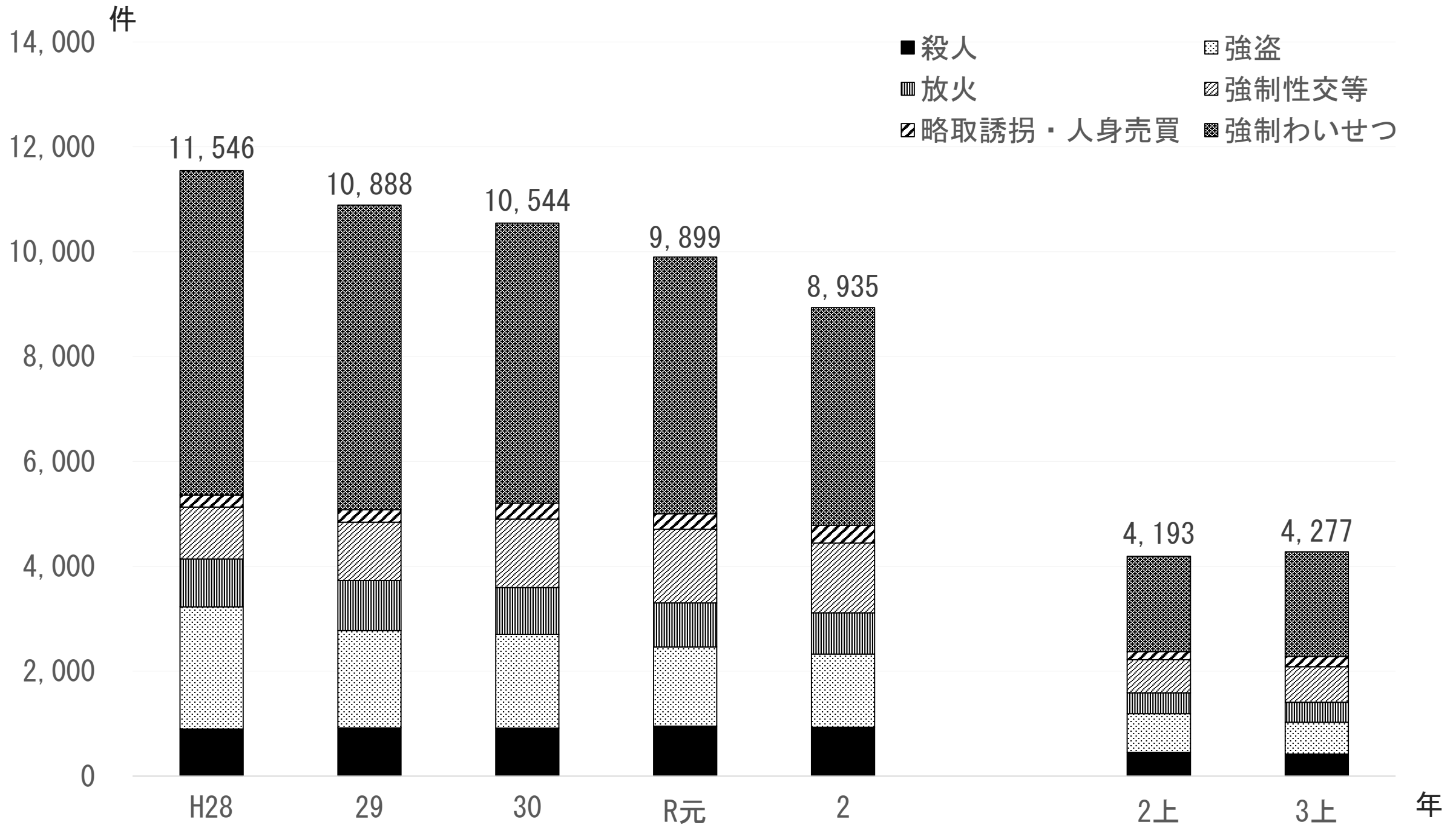
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
□ H29	26,135	23,362	27,761	27,133	33,617	31,782	33,530	34,329	32,565	31,787	28,246	26,889
▨ H30	22,272	19,812	23,604	25,698	28,439	26,169	29,191	29,459	25,937	29,998	25,622	22,174
▩ R元	20,156	18,444	20,344	22,062	24,872	22,456	25,867	24,724	25,994	24,867	21,941	21,229
▣ R2	18,472	16,538	19,154	15,035	14,118	16,198	15,914	17,160	17,435	17,782	16,730	14,732
■ R3	11,995	12,024	14,672	14,541	14,354	15,318						

R3 対前年同期比	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
	-35.1%	-27.3%	-23.4%	-3.3%	+1.7%	-5.4%	-	-	-	-	-	-

令和3年上半期における月別の街頭犯罪認知件数を見ると、1～3月が対前年同期比でそれぞれ35.1%減少、27.3%減少、23.4%減少となっており、昨年4月以降の減少傾向が引き続いている様子が伺える。

# 重要犯罪の認知件数の推移

(重要犯罪：殺人、強盗、放火、強制性交等、略取誘拐・人身売買、強制わいせつ)

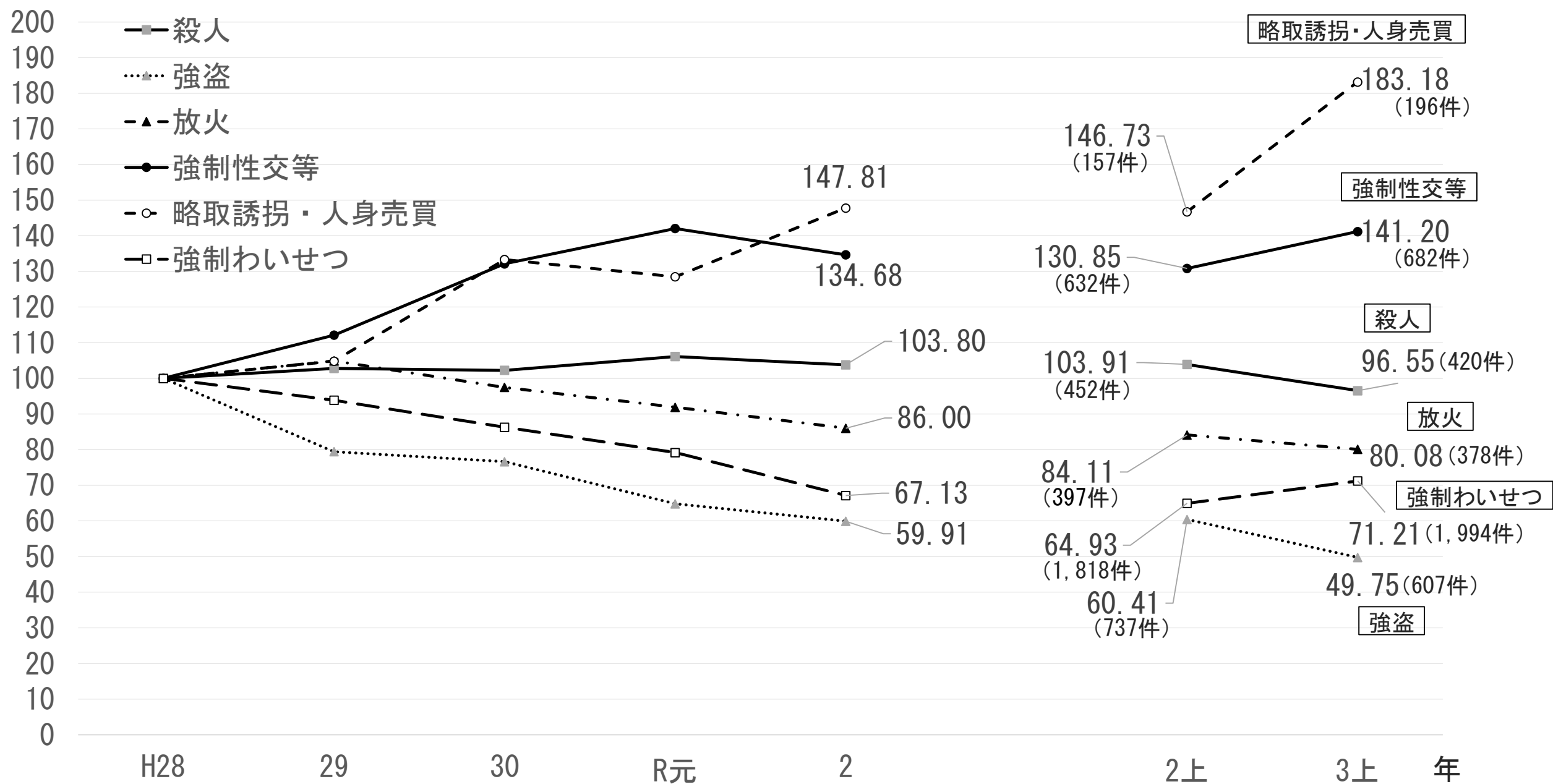


令和3年上半期における重要犯罪の認知件数は4,277件と、前年同期比で2.0%増加した。

# 重要犯罪の罪種別認知件数(指数)の推移

(重要犯罪：殺人、強盗、放火、強制性交等、略取誘拐・人身売買、強制わいせつ)

※ 令和2・3年上半期は、平成28年上半期を100とした場合。

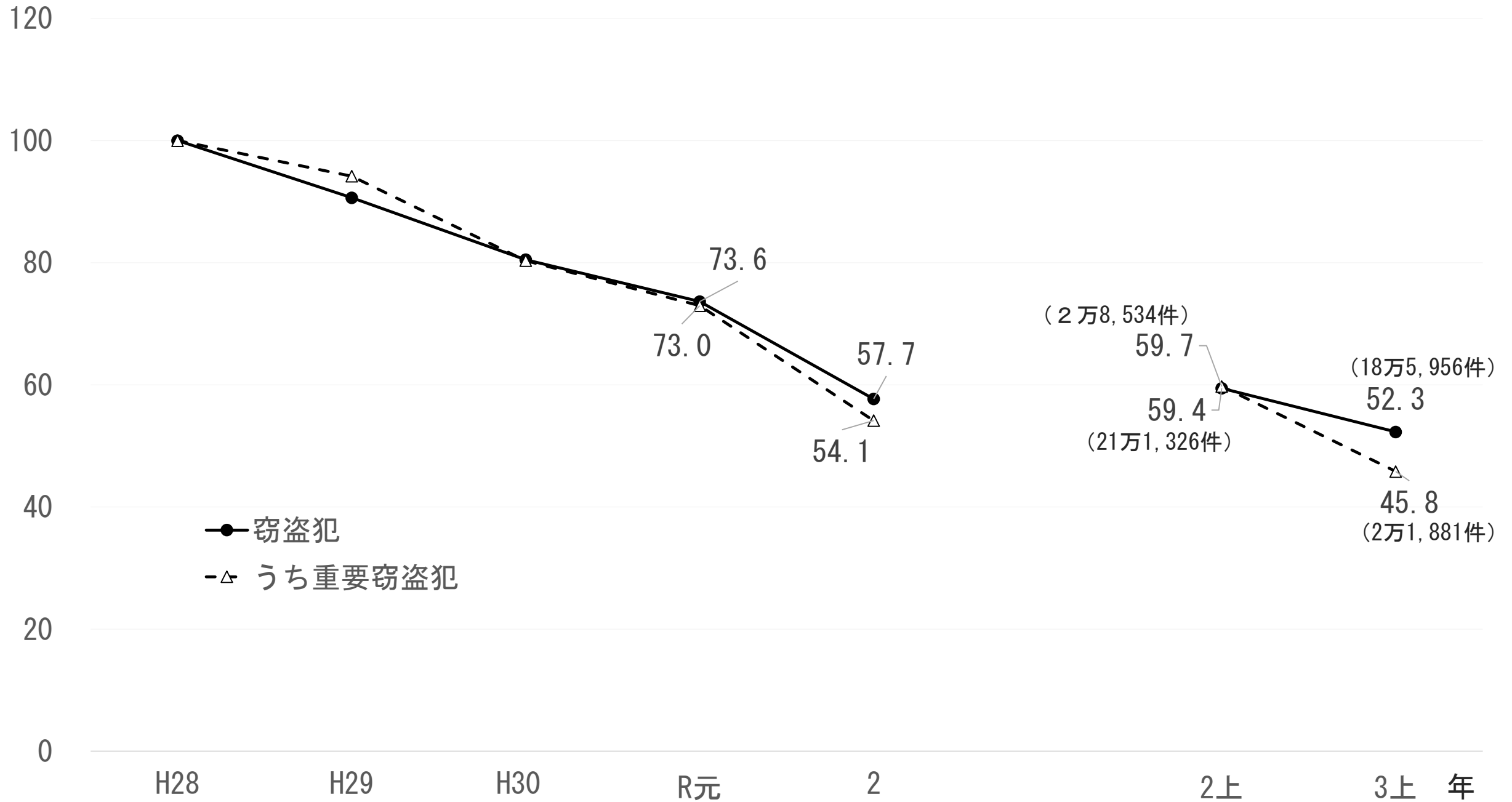


令和3年上半期の重要犯罪の認知件数を罪種別にみると、略取誘拐が196件、強制性交等が682件、強制わいせつが1,994件となり、前年同期比でそれぞれ24.8%、7.9%、9.7%増加した。

# 窃盗犯の認知件数(指数)の推移

(重要窃盗犯：侵入盗、自動車盗、ひったくり、すり)

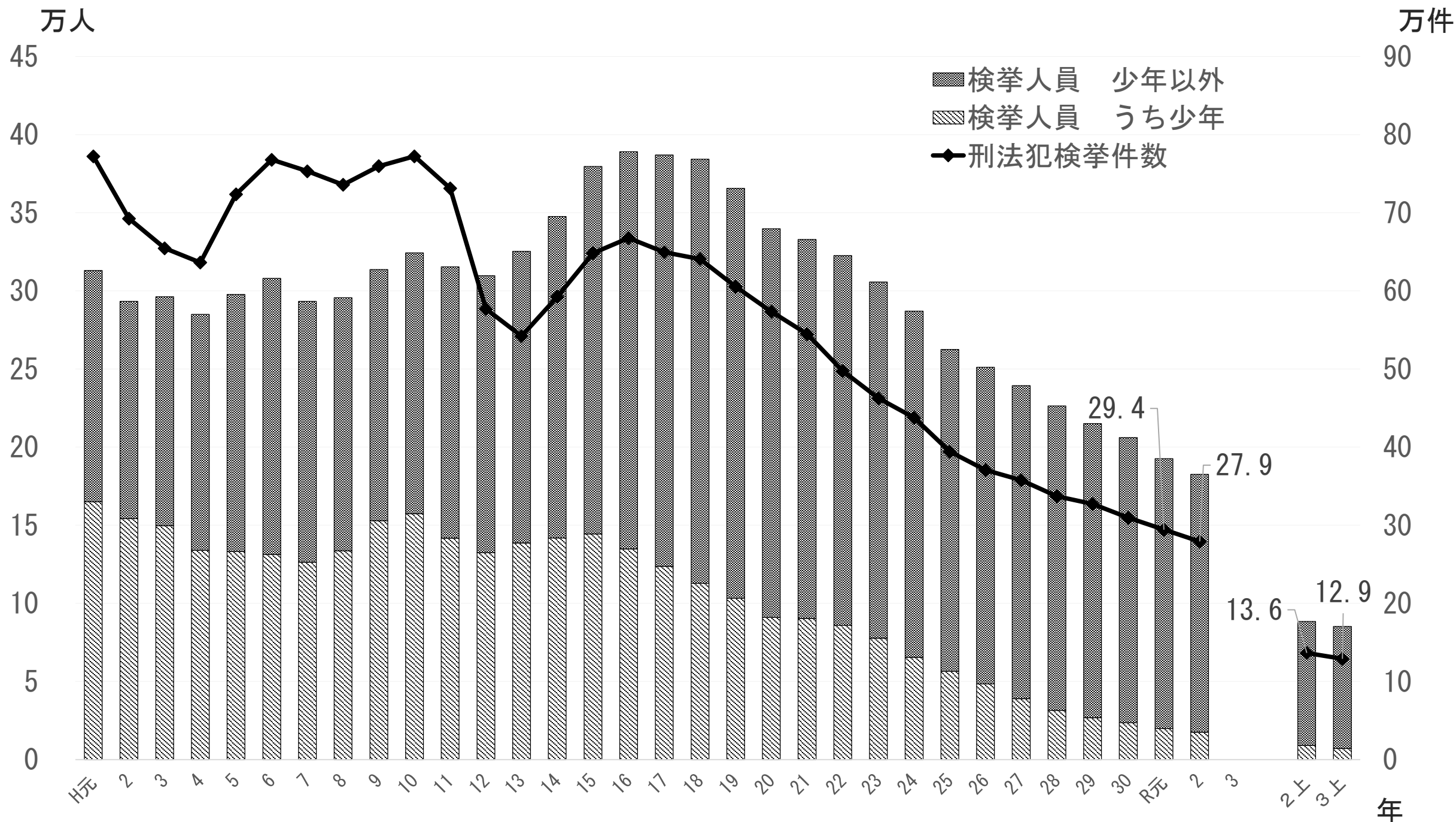
※ 令和2・3年上半期は、平成28年上半期を100とした場合。



刑法犯認知件数の約7割を占める窃盗犯について、令和3年上半期の認知件数は18万5,956件と、前年同期比で12.0%減少しており、近年の減少傾向が継続している。重要窃盗犯についても同様の傾向がみられ、上半期の認知件数は2万1,881件と、前年同期比で23.3%減少した。

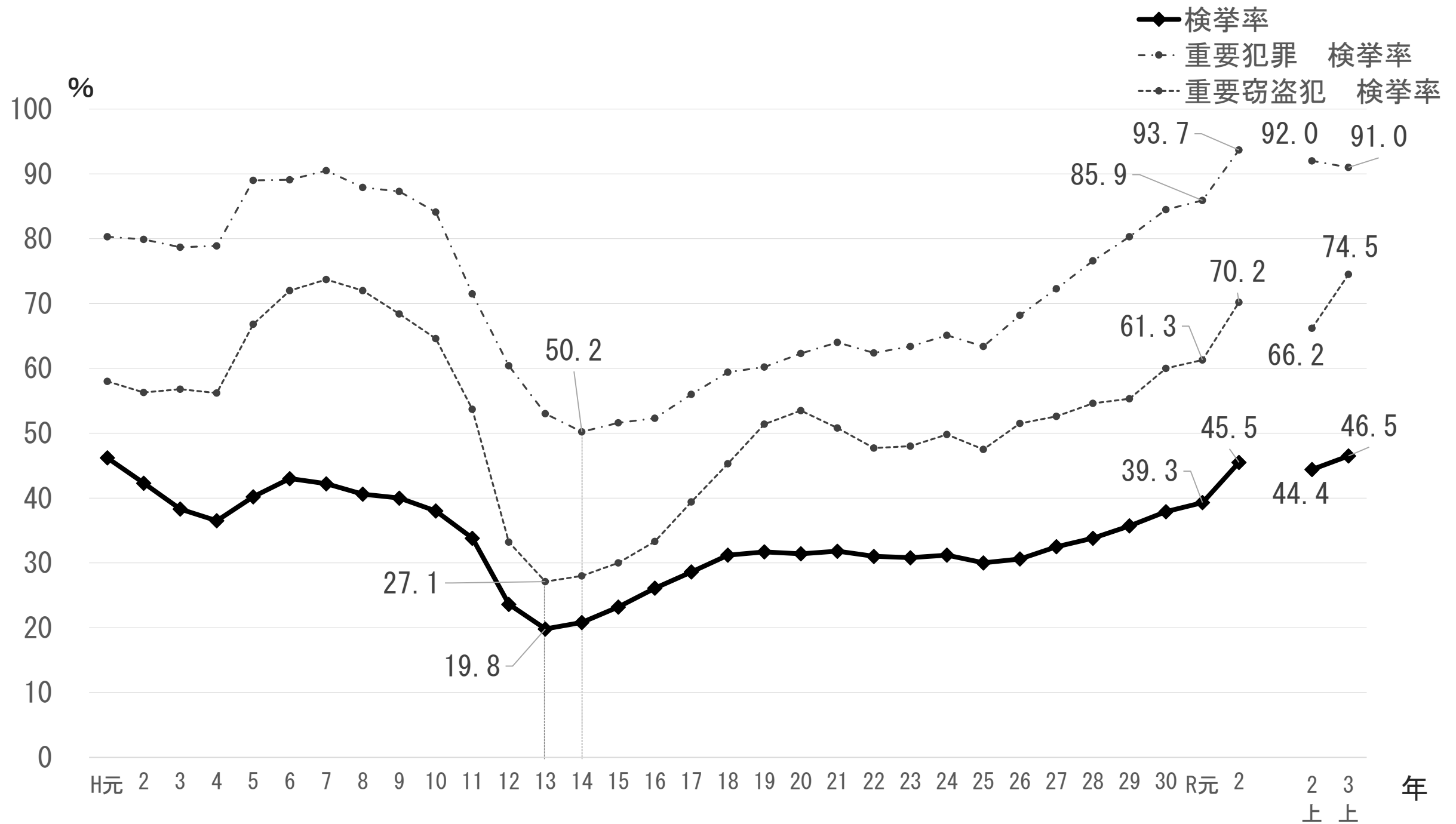


# 刑法犯の検挙件数・人員の推移



令和3年上半期における刑法犯検挙件数は12万8,979件、検挙人員は8万5,126人で、ともに令和2年の上半期(13万6,451件、8万8,336人)を下回った(それぞれ前年同期比で5.5%、3.6%減少)。少年の検挙人員は7,094人で、検挙人員全体の8.3%となった(令和2年上半期は全体の10.2%)。

# 刑法犯の検挙率の推移



令和3年上半期における検挙率は、前年同時期より2.1ポイント上昇し、46.5%となった。刑法犯の検挙率は平成10年代半ば以降上昇傾向にある。重要犯罪の検挙率、重要窃盗の検挙率も同様の上昇傾向にあったが、令和3年上半期における重要犯罪の検挙率は前年同時期より1.0ポイント下落し、91.0%となった。